日本共産党
流山深井後援会

ニュースあすなろ

14年8月15日
第186号
発行責任者
菊池 伍郎
TEL/FAX
7154−0526
（部内資料）

市民が求める体育館は？ 子供が主人公の学校は？

植田和子 第13回議会報告会

7月27日（日）午前、江戸川台東自治会館で第13回植田和子議会報告会「暮らしと地域要求を語り合うつどい」が、あすなろ後援会、こぶし後援会の共催で行われました。

植田議員は、最初に「6月議会は、初日から荒れ模様の議会でした」とのべて、総合体育館建て替え工事と小中併設校建設の追加予算問題、市内小中学校の学校間格差の問題、そして、福祉手当の廃止・削減問題について報告しました。

（学校間格差については本紙7月号で、福祉手当については6月号で掲載しましたので本号では紙面の都合上省略します。）

写真を示しながら報告する植田和子市議

総合体育館建て替えがれきが出てきた！

今現在、総合体育館の建て替え工事が行われていますが、工事が始まった最初の段階から、掘り起こした土の中から、次々とんでもない大きなコンクリートのがれきや産業廃棄物が大量に出てきて、その撤去費用5349万2400円、これを追加する補正予算案が提案されたことから始まりました。

現場の作業員の話では、掘ったら掘った分だけコンクリートのがれきが出てくるそうで、工事に入る前の支持基盤の調査も、きちんとされていなかったことが総務委員会の質疑の中で明らかとなりました。

その後委員会に提出された写真や現場を見た議員は、さすがにすんなり賛成するわけにはいかず初日は継続案件扱いになりました。

格差ばかり目立つ学校建設 誰のため

6月議会の中盤、小中併設校建設の追加予算の議案が執行部から出てきました。

小中併設校の建設現場には、毎日300人前後の作業員がきているため、トイレが足りず仮設の作業員トイレが設置されましたが、この追加工事費1297万円をUR都市機構が流山市に請求してきたため、今回の追加議案となりました。

URの工事の遅れで下水道がまだ通っていないので仮設のトイレが必要なことは最初からわかっていたこと。最初の工事積算に積み上げておかなかったのもUR。いい加減な計画でスタートして、予算が足りなくなる度にURは流山市に請求する。これでは、際限なく建設費は膨らんでいく、という批判はすべての会派から起こりました。

この委員会の日、参考人として呼ばれたURの部長が、「本来なら流山市が建てなきゃならない学校を、URがお金も立て替えて作ってあげている」と高飛車な発言をしたため、保守の議員達の怒りをかって、0：6という前代未聞の全会一致で否決、という結果となりました。

最終日の本会議では、4：21で否決となり、6月議会は閉会しました。

それを受けて、7月14日に臨時議会が開かれ、作業員トイレの追加工事費の分を抜いた修正議案が出されました。しかし、総合体育館建て替えと小中併設校建設の総事業費は、6月議会の段階で、190億4千万円となっています。

この小中併設校には、児童図書だけを置く子ども図書館の設置やおおたかの森センターの設置、1学年が一度に入れるランチルームや、音楽ホールも学校と一体化させたため、建設費が非常に高くなっています。

この修正議案は、21：5の賛成多数で可決されましたが、日本共産党は、不要不急の施設についてもふくめて語り合いました。参加された方の一人は今日参加した理由として「このままじっとしておれない。でも、私は高齢で病弱。安倍総理は、憲法違反の罪人だと、この怒りを突きつける行動をしたいけれど、一人では力がない。なんとかしたい」と話されたとのことです。

日本共産党の主張

総合体育館の建て替えも、小中学校の建設も必要です。しかし、規模や内容に十分な市民合意がなく、本当に児童、生徒を主人公にした学校建設なのかが問題なのです。小中併設校の全体計画が明らかになるにつれ、広がる疑問の解明が必要です。

参加者から

「自宅の放射線量が高い」「おもと会の送迎バスが不便になった」「森の倶楽部の駐輪場」「節電運動」など地域の身近な問題が出されました。また、暮らしと平和を破壊する安倍政権の危険な政治、特に集団的自衛権の問題では、自身の戦争体験

原発から撤退 ただ今原発ゼロ!!

こんにちは 植田和子です

8月11日7月は、労働相談で田村智子議員の秘書に会いに国会に行ったり、いじめ相談、臨時議会、民報作成が同時進行、隔週末には9月議会に上程予定の条例についてのタウンミーティングと忙しい日々でした。

8月12日7月27日の議会報告会には、あの暑い中を大勢の方に参加して頂きました。本当にありがとうございました。みなさんからの様々な要望、意見を、それぞれの担当課にお話してきました。（2面で報告）

もうすぐ、9月議会です。子ども・子育て支援新制度の条例案が、一気に4本出てきます。難しい中身なので、今、条例案の読み込みを進めています。国は来年の4月からスタートする予定ですが、保育料以外の上乗せ徴収が認められるようになるので、どれだけ保護者の負担が増えるのか、また、子どもを預ける施設の種類も増えるので、施設によって保育の格差が出てくるようです…。保育を利用するにあたって、認定が必要で、保育時間も決められるので、保育時間が短くなる可能性も…。来年の春、現場の保育士さん達と保護者の方達の間で、混乱が起きるのではと言われています。さらに、福祉手当削減の条例案も出ます。今までで一番苦しい議会になりそうです

ヘッドライト

イラクから引き揚げたはずのアメリカが「限定的な」爆撃を始め、再度危険な賭けに出た。確かに少数民族を抹殺するかのようなイスラム過激派の動きは放置できない。それを抑えきれない首相を交代させるというイラクの動きに間髪を入れず「支持」を表明した。気に入らなければ他国の首相を取り換えるというアメリカの常套手段だという憶測をぬぐえない▼アメリカは今、深刻なジレンマに陥っている。フセイン政権を国際社会をだまして転覆させ、しかもその後軍事介入して混乱を拡げたうえ、社会の安定の見通しも得られないまま撤退した。何らかの形でこの混乱を収拾する責任がある。しかし介入は一層の反米感情を拡大する恐れが強い▼こんな状況を日本は対岸の火事と見ていていいのだろうか。集団的自衛権行使を容認して、総理がわざわざそれを外国に触れ歩いている。多国籍軍として日本の自衛隊員がイラクに派兵される恐れが現実のものとなりつつある。日本を守り、災害救助で人のために役に立つと思って入隊した隊員に対する国家の裏切りだ。そして戦争しない国日本の国際的信頼は地に落ちる。